

平成30年6月6日

中部電力株式会社
浜岡原子力発電所長 吉田 博 殿

浜岡原子力規制事務所
統括原子力運転検査官 中村 節生

安全文化・組織風土劣化防止に係る取り組みの総合評価について(指導)

平成29年4月1日から平成30年3月31日に行われた、浜岡原子力発電所における安全文化醸成活動については、以下のとおり評価しましたので通知します。取り組み要請事項については、確実に実行されるよう求めます。

記

(取り組み要請事項)

- ・保安規定違反の区分「違反2」と判定された「4号機SGTSに接続される配管開口部の未復旧」の根本原因の1つである「業務環境の変化に応じた業務の管理が不足していた」に対する是正処置の方針について、これまで、事業者では本格的に環境変化に対するリスク管理を行ってなく、同管理に対するベンチマーキングが十分ではなかったことから、目標が明確に示されていないと考える。また、保安規定違反の区分「監視」と判定された「4号機RCCW(A)トレンチ室内の雨水浸入事象対応における保安活動に係る問題点等」の不適合事象の要因として、環境変化に対するリスク管理と同様に、事業者では本格的に行ってこなかったプロジェクト管理や文書の構成管理の不備が挙げられている。長期停止により強化が必要となってきた管理業務についてのベスト・プラクティスの探求を行い、目指すべき目標をしっかりと定めて「事故・故障等の未然防止に取り組む組織」に係る改善の施策を策定して実施することを要望する。
- ・「4号機SGTSに接続される配管開口部の未復旧」及び「4号機RCCW(A)トレンチ室内の雨水浸入事象対応における保安活動に係る問題点等」の重大な不適合事象において、業務の基本動作がしっかりできていない状態が散見された。個々人が業務の基本動作を当たり前に行うことはもとより、個人だけではなくチームとして業務の基本動作に対する習熟度を向上させるべく「常に問いかける姿勢」「良好なコミュニケーション」及び「コンプライアンス」に係る改善の効果的な取り組みを要望する。

(奨揚がふさわしい取り組み)

- ・当事務所からの平成29年度の取り組み要請事項「事業者・請負会社間における共通認識・共通言語の醸成」を踏まえて、協力会社との安全文化・QA連絡会が開催され、QA部門共通の視点で現場の品質確認を行い、事前にエラーの芽を摘み取る活動や浜岡原子力発電所全体の安全文化醸成活動等について議論しており「事業者・請負会社間における共通認識・共通言語の醸成」に努めている。
- ・「4号機SGTSに接続される配管開口部の未復旧」において安全上重要な機器等の重要性についての認識が希薄になってきているような行為が見受けられたことを受けて、同機器の操作の際に、運転のリーダー(発電指令課長)が現場状況を確認する等、当直員等に対する同機

器の重要性についての意識付けに努めている。

(総合所見)

安全文化・組織風土の劣化防止に係る取り組み状況については、以下の理由から「計画に基づいた取り組みが行われ、改善傾向がみられる」と評価する。

- ・保安検査における管理責任者等へのインタビューなどからも経営責任者の積極的な関与が行われていると判断できる。
- ・年度計画通りに発電所全体として取り組みが実施されている。
- ・組織の安全文化の状態及び安全文化醸成に関する各活動については、良好と評価できる。

安全文化・組織風土の劣化兆候については、以下の理由から「コンプライアンス」「常に問いかける姿勢」「事故・故障等の未然防止に取り組む組織」等の要素において懸念があるため、「特定の安全文化要素について劣化兆候が見られる」と評価する。

- ・事業者の評価において、コンプライアンス及び技術力の2つの側面について「各側面に関連するクラスA、B1の不適合事象」の件数あるいは「RCAの結果、各側面に問題があったとした不適合事象」の件数から「安全文化の傾向監視」の観点で「改善の必要有り」と判定された。
- ・平成28年度から、安全上重要な機器等やインサービス後は高い安全性を要求される安全性向上対策工事中の設備などにおいて、原子力発電所の作業に不慣れと思われる請負会社従業員による不適合事象が継続している。平成29年度は「4号機SGTSに接続される配管開口部の未復旧」などで、業務の基本動作がしっかりできていないことに起因する不適合事象が散見されている。

以上